



佛蘭西國廣濟典當所法抄譯

規則

908



414
A2737
1



典鋪法

典鋪

ノ法則ハ左ノ如ク定メテリ

一 明治政治第十二年（即チ一月九日）ヨリ二月十八日

迄之ニ准ス以テ十六日ノ法ニ典鋪ハ政府ノ免許ヲ

得而シテ其利益ヲ以テ貧民ヲ救済スルノ目的

ニテラサレハ之ヲ設立スルヲ得サルモノト

セリ

一千八百七十七年七月廿八日ノ内閣決議ニ典鋪ハ株

券ヲ以テ起立スヘカラストセリ

一千八百二十三年六月廿八日ノ公布ニ典鋪ノ歳

入出豫算表及ヒ會計ノ事務ハ他ノ救済所ト同

一ニスヘキモノトセリ

一千八百二十三年七月十五日ノ公布ニ典鋪ノ歳

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

入豫算表ニハ人民貸附スヘキ元金ノ高ヲ組
 入ルヘカラス全ノ借玉ヨリ納ハル利子及ヒ其
 他ノ收入ヲ強入ルヘシ而テ此豫算表ハ各縣令
 或ハ事務宰相ハ具状スヘキトセリ
 一千八百二十三年六月十八日ノ公布ニ營繕賣捌
 交換貸借等ヲ事務ハ渾テ故濟所ト同一ニスヘ
 キモノトセリ
 一千八百四十四年一月十日^{五十九}日皇帝ノ詔命ヲ以テ
 典當所ノ不動産税及^{門戸税}門戸税ヲ免除セリ但シ
 典當所内ニ住スル吏員居室ノ窓戸税等ハ此限
 一併ス
 一千八百四十五年六月十四日内務卿ノ定メニ典
 舖ノ差入レシ吏員身元金ヲ利子ハ三分ヨリ多

カルヘカラストセリ
 右ノ法則ノ共和政治第十二年典舖ヲ創起セシ尔未
 之ヲ制定シ未^テ又完全無^ク致^スノモノト思考スル能ハス
 此文中^ララサ^ル趣旨ノ論述^スアレ^バ氏佛蘭西國典當所法則完全^ニ
 略ス

典舖法

佛蘭西國共和政治會第十二年「ブリガア」ス「六」日
一等公^ル爾官慕那破見的巴里府ニ於テ佛蘭西人民
ニ代リ左ノ法則ヲ立法官ト協議決定ノ上布告スル
モノナリ

第一条

凡ソ物品ヲ預リ金額ヲ貸附スル者ハ必ス政府ノ免
許ヲ得而テ其利益ヲ以テ貧民ヲ救済スルノ目的ニ
非レハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二条

現時設立ノ典舖ハ渾テ此法則ヲ布告セシ日ヨリ六
ケ月以内ニ於テ第一条ノ法則ニ循ク政府ノ免許ヲ
請フサルモノハ其事業ヲ停止ス而シテ其次年中ニ解

店決算書ヲ出スヘキモノトス

第三条

此法則ニ背クモノニハ刑法裁判所ニ於テ五百「アラ
シ」凡^ル賤ヨリ少カラス三千「アラシ」凡^ル我六ヨリ多
クナル罰金ヲ科シ其金額ヲ貧民救恤ノ用途ニ充ツ
若シ罰金ヲ納ムル資カナキモノハ其身軀ヲ使役ス
若シ再犯スル者ハ定額一倍ノ罰金ヲ科ス

第四条

右ハ初犯再犯ヲ問ハス罰金ノ外ニ預リ質物ヲメ没収
ス

廣濟六當所設事規則

佛蘭西共和政治曆第十二年、リ七月十八日迄ヲシドールル月十九日六
云以下之ニ准ス廿四日セントルルノ宮中ニ於
テ上帝ノ恩惠ヲ受ケタル佛蘭西人民、皇帝那破倫
今般内務卿ノ申稟ニ因テ參議院ト協議ノ上左ノ規
則ヲ決定ナルモノナリ

第一章

巴里府廣濟典當所議事官ノ事

第一条 巴里府ノ典當所ハ向來ノ利益ヲ以テ救濟
所ノ入費ニ充ツ可シ

第二条 典當所ノ議事官ハ縣令、警視長官、巴里府救
濟所事務批ノ吏員及、典鋪株主ノ總代理人ヲ以
テ之ニ充ツ

第三条 救濟所事務批ノ吏員ハ四名ト定メ内務卿
之ヲ命ス

第四条 典鋪株主ノ總代理人ハ三名ト定ム但シ株
主中ノ者ニアラザレハ之ニ撰任スルヲ得ス

第五条 典鋪監督官ハ向來政府ニテ命スルヲナ
シ

第六条 典鋪行出納事務年度ノ會計表ハ參議院ニ於テ一
課ノ長及、四名ノ議負擔當トキ之ヲ檢査シ然ル
後參議院ノ總書記局ニ送致スヘシ

第七条 典鋪事務改革ノ議案ハ議事官ノ決議ヲ附
シテ參議院ニ上陳シ而シテ皇帝陛下該院ニ臨御
シ時内務卿ヨリ之ヲ天覽ニ供シテ其制可シ得ル
モノナリ

第八條 典當所ニ於テ典當者ヨリ收得スヘキ及ビ債主ヘ附テスヘキ利子ノ高ハ議事官ニ於テ定ムルニ依リテ定ムルニ依リ

第九條 巴里府ノ救濟所ニ於テハ其所有家屋ヲ賣却シ之ハ別ニ國法ヲ設ケテ許可スルモナリシテ收得セシ價金其他ノ收入金及ビ所有ノ賤産物ヲ以テ共和政治曆第十三年内ニ渾テ典鋪株主ヨリ株券ヲ買戻スヘシ

第十條 渾テ株券ヲ買戻セシ後ハ議事官ニ於テ株主ノ代理ニ屬セシ權利ヲ剥奪ス可シ

第十一條 議事官ヨリ開陳セシ典當所吏負身元金ノ高及ビ何等ノ吏負ヨリ其身元金ヲ出スヘキヤメノ程限ハ内務卿之ヲ定ムヘシ

第二章

巴里府典鋪改革ノ事

第十二條 巴里府典當所ノ議事官ニ於テ最モ切要トスルハ現時存在スル典鋪改革ノ為メ新ニ設ケヘキ文店ノ數及ビ其法業ヲ具狀スヘキ

第十三條 議事官ニ於テハ現時巴里府ニ存在スル典鋪解店ノ方法及ビ其法案ヲ具狀シ且之ヲ為ニ共和政治曆第十二年「プリ」ホ「ア」ズ「十六」日ノ法ニ定メシ解店期限ニ延シテ適當ノ期限ヲ立ツ可シ

第三章

各縣廣濟典當所設立及ビ典鋪改革ノ事

第十四條 參議院ニ於テ皇帝陛下ノ天覽ニ供スル為メ各縣令「リ」速ニ典當所ヲ設立スヘキ至便ノ場

所及ニ其法案ヲ内務卿ハ具状スヘシ
 第十五条 該典當所ヲ設立スルニ由リ議事官ニ於テ
 ハ同所ニ在ル典舖ヲ解店スルノ方法及ヒ其期限
 竟見ヲ具状シテ皇帝陛下ノ准允ヲ得ヘシ
 第十六条 内務卿ハ此規則施行ノ一ヲ擔任シ而テ之
 ヲ法律布告書ニ載スヘシ

那破倫

宰相マレット

巴里府典當所設立規則

佛蘭西共和政治曆第十三年^{當千八百一}テ^{ミト}ル
八月廿二日迄ヲ云 八日セントクル^レノ宮中
於テ

佛蘭西人民ノ皇帝兼伊多里國王^{ナボレ}ヲ^シ左ノ規
 則ヲ布告スルモ

第一条

典當所株券買戻シノ事務ハ速ニ之ヲ施行スヘシ

第二条

巴里府救濟所及ヒ典當所ノ事務ハ第十二年^{メシト}
ル廿四日ノ法ニ定メタル議事官内務卿命ヲ奉
レル^ル又縣令ノ兼認ヲ得此法律報告各附録ノ規則
 ニ循テ之ヲ施行ス

第三條

各典當所事務施行付テ該事官ノ該事ハ凡テ縣令
ヨリ之内務卿へ申報スヘシ

巴里府典當所設立事務程規

第一篇

典當所設立方法

第一章

一般事務施行ノ事

第一條 巴里府典當所ハ本店及支店ヲ設立スヘシ

第二條 典當所本店ハ、ブランクマンント、坊ノ旧公
濟館ニ設立シテ巴里府典當事務ノ中心点トスヘシ

第三條 支店ハ、公局及倉庫ヲ具有スルモノニシテ
本店ニ附属スルモ本店所在ノ地ヲ距テ巴里
府内緊要ト見認メ各地方ニ設立スヘシ

第四條 共和政治廳第十一年、十二月十四日ノ

詔命ヲ以テ定ル議事官ハ内務卿ノ認可ヲ經

縣令及ヒ警視長官ノ意見ヲ取リテ支店ノ數及ヒ

場所ニ就テ、規則ヲ決定ス但シ支店ノ數ハ政府

ヨリ特別ノ免許有ルニ非レハ六個所ヨリ多ク設

立スヘカラス

第五條 典當所ハ本文店ノ別ナク内務卿及ヒ縣令

ノ推内ニテ一名ノ督長ヲ置キ之ニ一等二等ノ吏

員及ヒ切要ノ傭人オヲ附属セシメテ其事務ヲ施

行シ而シテ議事官之ヲ監督シ此吏員ノ細目ヲ示

ス左ノ如シ

一 本店ノ倉庫管理官、總會計官、金庫監督官、競賣

管理官(一等吏員)

二 支店ノ副督長、倉庫管理官、競賣管理官(同上)

三 本文店ノ検査官、評、セ、價、人、コ、鑑

定、ア、ツ、レ、シ、官、テ、ル、ス、(同上)

四 支店ノ會計官、公局長、同副長、本文店公局ノ附

屬官(二等吏員)

五 傭人其他典當所ニ從事スル小厮

第六條 督長、副督長、總會計官、金庫監督官、縣令ノ

具牒ヲ以テ内務卿之ヲ命シ其他前ニ開列セシ吏

員及ヒ傭人オハ議事官ノ申牒ヲ以テ縣令之ヲ命

ス但シ鑑定官ハ此法ノ第四章ニ定メシ特別ノ規

則ニ循フヘシ

第二章

督長事務取扱事

第七條 督長ハ凡ラ典當所事務ノ大綱ヲ管理シ或ハ臨時一課ノ事務ヲ監督シテ議事官ノ定メレ成規ヲ遵奉シ又内務卿ニテ制定セン縣令ノ管理スヘキ典當所事務一般ノ規則或ハ特別ノ定規ヲ奉行スヘシ

第八條 督長ハ典當所會計上ノ事ニ就テ其責ニ任ス可シ

第九條 典當所ハ會計ヲ確明シ以テ其景況ヲ示サシメ毎月上納表ヲ製シ之ヲ議事官ニ送致シテ其檢査ヲ受ケ又二葉ノ寫ヲ作り之ヲ内務卿及ヒ縣令ニ申報ス可シ

第十條 毎年ノ最終ニ至リ月表ノ順ヲ逐テ一ケ年ノ歲入出總決算表ヲ製シ議事官ノ檢査ヲ受ケ而

レテ共和政治曆第十二年ノ十一月十四日ノ法

第六條 規則ニ循ヒ參議院一課ノ長及ヒ四名ノ議員ニテ之ヲ擔理シ皇帝ノ准允ヲ經テ總督記局ニ送付シ該局其成規ニ遵テ之ヲ保存スルモノナリ

第十一條 出納年度ノ終ニ至リ次年度中ニ施行スヘキ歲入出ノ豫算表ヲ製シテ督長ヨリ之ヲ議事官ニ報告スヘシ

第十二條 歲出中ニ組入レ可キ主眼ノモノハ家屋借貸修繕費及ヒ典當所々有ノ不動產稅此内年賦拂ヒ分モ加ル其他公局ノ薪炭燈油ボノ費ナリ

第十三條 議事官於テハ督長ヨリ報告ノ豫算表ヲ審查決定セシ後内務卿ノ認許ヲ得テ実行セン

為之ヲ縣令送致スヘシ

第十四条 前条 手續ハ既ニ決定セシ歲出ノ額ハ該出納年度中ニ於テ決レテ其定額ヲ超過スヘカラス又豫美外臨時ノ歲出ハ豫メ該事官ヨリ特別ニ承認ヲ得縣令其意見ヲ具牒シテ内務卿ノ認可ヲ受ルニ非レハ之ヲ増加スヘカラス

第三章

各吏員及傭人事務取扱ノ事

第一節 副督長ノ事

第十五条 副督長ハ督長ニ代リテ支店ノ長トナリ其命令及ヒ監督ニ從テ該店ノ事務ヲ管理ス但シ其事務順序ハ渾テ督長ノ管理スル本店事務順序ト同様タル可シ

第十六条 副督長ハ支店ニ於テ貸付ノ為メ本店ノ

總金庫ヨリ収領セシ金額ノ責ニ任スヘシ

第十七条 副督長ハ毎日支店ニ於テ施行セシ事務ノ報告書ヲ作り之ヲ督長ニ具牒スヘシ

第二節 倉庫管理官ノ事

第十八条 倉庫管理官ハ總テ其管轄スル本店或ハ支店倉庫物品ノ出入レ及ヒ該倉庫ニ附属スル傭人ノ出入ヲ監視スヘシ

第十九条 倉庫管理官ハ該倉庫中ニ藏貯セシ物品ノ紛失及ヒ朽腐セサルタメ慎重ニ注意シテ之ヲ管護スヘシ

第二十条 倉庫管理官ハ質物中貴重ナル宝器ニシテ鉄篋敷箇ノ鎖鑰中ニ藏置シ得可キ容量及ヒ千

ヲラレクハ百圓以上ノ價ナル物品ヲ倉庫中ニ放
置シテ紛失セシムルハ必ス其責ニ任セサル可カラ
ス

第廿一條 倉庫管理官ハ倉庫物品ノ出入簿ノ製置
スヘシ

第三節 總會計官ノ事

第廿二條 總會計官ハ督長ノ命令ヲ奉シ議事官ノ
定メレ規則及ニ其當所ノ章程ニ循テ歳入歳出ノ
事務及ニ其簿記ヲ擔理スヘシ

第廿三條 總會計官ハ督長ヨリ會計上ニ就テ尋問
ノ事有ラハ其景況ヲ具牒スヘシ

第四節 金庫監察官ノ事

第廿四條 金庫監察官ハ凡テ出納ノ金額ヲ登錄シ

而テ毎日庫金増減ノ現状ヲ督長ニ報告スヘシ

第五節 競賣管理官ノ事

第廿五條 競賣管理官ハ倉庫管理官ヨリ競賣スヘ
キ物品ヲ收領シテ其賣捌キヲ監視シ而レテ其收
入價金ノ會計ヲ整理スヘシ

第六節 典當所本支店検査官ノ事

第廿六條 検査官ハ本文店ノ區別ナシト虽モ特ニ
支店事務ノ施設及ニ吏員職務ノ狀況ヲ觀察シ若
シ違背ノトアレハ直ニ之ヲ議事官へ申報マヘシ
而シテ内務卿縣令警視長官或ハ議事官ヨリ特ニ
或ル事件ノ検査ヲ命スルトアレハ直チニ之ニ就
テ吏員ノ措置ノ訊問ニ臨時ニ金庫及ニ帳簿ヲ点
檢スヘシ

第廿二条 検査官ハ特別ノ事件ニ就テ臨時開申スル報告ノ外毎月尾ニ支店ノ景況吏員ノ勤惰及ヒ事務施行ノ方法ヲ議事官ニ報告シ而シテ其議会ニ如列スルヲ得ヘシ

第廿八条 検査官ハ本支店ノ別ナク渾テ二名トス

第七節 支店會計官其他傭人ノ事
第廿九条 支店會計官公局長同副長其他ノ吏員及ヒ傭人ノ懲戒規則并ニ職制ヲ渾テ督長ノ申牒ニ因テ定ムルモノナリ

第四章

鑑定官ノ事

第三十条 鑑定官ハ^{シテ}縣ノ評價所ノ評價人中ヨリ之ヲ撰拔スヘシ

為ノ総テ行政上或ハ法律上ニ於テ動産ノ價額ヲ要スルキ之ヲ評價スルヲ擔當スルモノナリ

第三十一条 鑑定官ノ負^數ハ議事官ノ申牒ニヨリセ

ル^レ縣令ノ意見ヲ取リ内務卿之ヲ定ム而シテ之ヲ命スルニハ内務卿ヨリ又縣令ノ意見ヲ聽キ評價人中ヨリ右定負三倍ノ姓名唇ヲ出サシメ其内

ヨリ三分ノ一ヲ撰拔スルモノナリ

第三十二条 鑑定官ハ本支店ノ區別ナク渾テ質ニ典スルキハ其物品ヲ鑑定シテ價額ヲ定ム可レ

第三十三条 鑑定官ハ典當所ノ評價人ニシテ動産ヲ賣却スルコトアレハ其手続キラ施スヘシ但シ此手続ハ第二篇ニ詳説ス

第三十四条 評價所ノ評價人ハ典當所ニ對シ鑑定

官ノ定メシ評價ノ金額ヲ保証スルモノナリ
第三十五条 渾テ典当ノ物品其期限ヲ過キ満没ニ
至リシ後之ヲ賣却シテ此價金若シ其貸附元金及
ヒ利子手数料オノ高ニ及ハサルキハ評價人ヨリ
此不足ヲ補償スヘシ

第五章

吏員身元金ノ事

第三十六条 身元金ハ督長副督長倉庫管理官總會
計官競賣管理官支店會計官公局長ハ勿論本文兩
店ノ吏員及ヒ傭人ト虽モ其事務ニ由リ保証ノ為
之ヲ出サシムルヲアルヘシ

第三十七条 身元金額ハ共和政治曆第十二年
ト一ニ廿四日ノ法第十一条ノ規則ニ循ヒ内務卿

ノ認可ヲ得テ該支官之ヲ定ムヘシ

第三十八条 身元金ハ渾テ現貨ニ限レリ之ヲ典當
所本店ノ総金庫ニ藏置シテ其利子ヲ拂フモノナ
リ此利子ノ割合ハ典當所ヨリ他ハ貸附スル金ノ
利子ト同額タル可ク而テ本人ニ非サレハ之ヲ収
領スルヲ得可クス

第三十九条 吏員或ハ傭人ノ内若シ其責ニ任セシ
事件ニ就テ身元金ノ幾分ヲ典當所ニ没収セラレ
レ者ハ但シ是カ為ノ其職ヲ免スルヲナシ遲クモ
三ヶ月内ニ其欠額ヲ補償スヘシ

第四十条 前条場合ニ於テ若シ其欠額ヲ補償スル
能ハサル者ハ一時該務ニ從事スルヲ停ム而テ其
停務中ニ尚ホ之ヲ補償スル能ハサル時ハ則チ其

代リヲ命スヘシ

第四十一条 吏員ヲ免セシキ其身元金返付ノ事ニ就テ典當所ノ債主又ハ本人ノ債主ヨリ長官ニ對シ之ヲ拒ムノ權利ハ共和政治曆第十三年「ウエ」トゾ六日ノ法ニ遵フヘシ

第二篇

典當事務取扱規則

第一章

通規

第四十二条 典當所ハ抵當品ヲ預リ貨幣ヲ貸附スルモノニシテ此貸付元金ハ渾テ救濟所ノ元金ヲ以テ充用ス若シ不足ノ時ハ人民ヨリ借受シテ之ニ充ツルモノナリ

第四十三条 典當所ニ於テ使用スル簿冊及ヒ証卷類ハ本支店ノ別ナク渾テ印紙稅ヲ免除ス故ニ簿冊擔理ノ吏員一名簿冊ノ每紙ハ數号ヲ記シ小數ヲ捺シ以テ之ヲ証ス

第四十四条 典當所ニ於テハ其元金及ヒ借受金ノ別ナク渾テ之ヲ一個ノ鎖鑰ヲ具シタル篋ニ藏置シ此鍵子ハ督長總會計官金庫管理官ノ三名ニテ之ヲ預リ而シテ需用ノ為メニ其金貨ヲ出スキハ前三官ノ立會ニテ之ヲ行フ可シ

第四十五条 第二篇第四十二条ノ場合ニ於テ人民ヨリ金額ヲ借受スキハ必ス巴里府救濟所ノ所有物ハ固ヨリ其他典當所ノ家產法律上許可ヲ以テ賣却セシ物品ヲ為メ得ル所ノ收入金元金ヨリ生

スル臨時ノ収入金及ヒ病院ノ預リ金ヲ以テ其抵
当ニ記載ス可シ是偏ニ債主及ヒ典者ヲシテ危惧
ノ心ヲ生センメサル為メナリ

第二章

物品ヲ預リ金貨ヲ貸附スル事

甲 物品ヲ預リ金貨ヲ貸附スル一般ノ定

規

第一節 預リ物品ノ事

第四十六条 典當所ニ於テ金貨ヲ貸附スルキハ鑑
官^定官ヲシテ典者ノ動産典物ノ價金ヲ鑑定セシメ
之ヲ倉庫ニ藏シテ金貨ヲ貸附スルモノナリ
第四十七条 渾テ物品ヲ預リ金貨ヲ借受セント要
スル者ハ必ズ其典當所區内ノ一市街ニ定リタル

住居アリテ土着人タルヲ確知セラレ及ヒ右同様
保証人ヲ立ルニ非レハ之ヲ借受スルトヲ得ス
千八百四十七年十月三十日ノ典當所事務規則ニ
巴里府ニ居住セサル者ノ金貨ヲ借受セント要
スルキハ自己ノ姓名ト其寄苗所トヲ記セル預ケ
証書ヲ以テ確示スルニ非サレ、典當所公局内ニ
入ルヲ許サス而テ其典當物品平常使用スルモノ
ハ一般ノ手續ヲ以テスト虽モ若シ新規ノ品或ハ
凡テ一切ノ交易ノ品ヲ以テスレ時ハ正則ヲ踐ミ
タレ往來免狀及ヒ高法免狀ヲ確示セシ上巴里府
内ニ居住シテ同物品ノ高法免狀ヲ所持スル保証
人一名ヲ立テ尚ホ典當所ニ於テ意ニ滿ツル夫ケ
ヲ保証ヲ為ス非レハ金貨ヲ貸附セサルモノト

第五十四條 典當所貸附、期限ハ一ケ年ト定ム尤
モ典者其期限前ニ抵当物品ヲ購ヒ又ハ第四節及
ヒ第五節ノ規則ニ循テ置据ヘ延期スルトヲ得ヘ
シ

第五十五條 典者ヨリ拂フヘキ利子ハ高ハ六ケ月
毎ニ議事官之ヲ定ム而テ其額若シ從前ノ定額ヨ
リ超過スルニ於テハ該縣令ノ意見ヲ聽キ内務卿
ノ認可ヲ請フ可シ

第五十六條 前條利子ノ高ハ貸附ケ元金ノ利子鑑
定費物品預リ費其他公局ノ手数料オヲ通算シテ
之ヲ定ムルモノナリ

第五十七條 一ケ月ノ利子ハ渾テ十五日前後ヲ以
全額半額ノ區分ヲ立テ之ヲ計算スルモノトス一

日ニテモ十五日以後ニ購フ者ハ全額ノ利子ヲ収
領スヘシ

第五十八條 貸附金ノ高其抵当物品金銀器或ハ宝
石珠玉ノ類ハ鑑定價高五分ノ四他ノ種類ハ渾テ三
分ノ二マテトセリ

第五十九條 典考ト典當所トノ間ニ取極メシ金高
ヲ其典者ニ附与スル時ハ無印紙税ノ物品預リ昏
ヲ渡スヘシ

第六十條 預リ昏ハ無記名ニシテ唯抵当物品ノ名
稱ト某月某日幾許金ヲ貸附スルトノミヲ記載セ
リ

第六十一條 典者若シ此預リ昏ヲ紛失セハ直チニ
典當所督長ニ其旨ヲ報告シ督長其報告ヲ得ハ預

物品帳簿中該物品ヲ記載シテ欄外之ヲ記入スヘシ

第四節 質物置据ノ事

第六十二条 典當所物品其満期ニ至リ典者ニ於テ更ニ延期置据ノ手續ヲ為スルハ該物品ヲ競賣所ヘ送付スルナシ

第六十三条 典物ノ置据ヲ為スルハ典者ヨリ前期ニ属セシ利子及ニ手数料ヲ典當所ニ拂ヒ更ニ其物品ノ鑑定ヲ受クルモトス若シ再度ノ鑑定價金前鑑定ノ高ヨリ低額ナルハ右差金ヲ收領スヘシ

第六十四条 再度ノ鑑定其例規ニ照シテ鑑定官之ヲ定メ典者又其規則ニ循テ利子手数料ヲ納メシ

上ハ新ニ典當ノ手續ヲ以テ更ニ其物品置据ヲ為スルヲ得ヘシ

第五節 典物受戻及ニ紛失品賠償ノ事

第六十五条 典當所ノ物品預リ証昏ニ記セシ期限満ル時或ハ期限前ハ固ヨリ満期後ト虽モ典當所ニテ未^レテ該抵當品ヲ競賣ニ付セサル前ハ典者ヨリ右証昏ヲ典當所ヘ出シテ其元金利子及ニ手数料ノ納メハ該抵當品^{最初}ニテ之ヲ受戻スルヲ得ヘシ

第六十六条 典當所若シ典物ヲ紛失シテ其所有主即チ典者ニ送付スルヲ得サルハ該物品最初典セシ時ノ鑑定價金ニ割五分ヲ增加シテ之ヲ典者ヘ償フヘシ

第六十七條 典當所若シ典物ヲ損敗スルトアレハ其所有主即チ典者該物品其終領収スレテ肯セサレノ権利アリ典當所ニ於テハ該物品最初預リシ時ノ鑑定價金ヲ典者ニ拂フヘキモトス然リトモ典者若シ損敗ノ終之ヲ領収シ其損所ノ償金ヲ要スル時ハ典當所ニ於テ二名ノ鑑定官ヲノ該物品ヲ鑑定セシメ而シテ其價額ト最初典セシキ價額ト比較シテ其差金ヲ典者ニ拂フヘル

第六十八條 典者若シ典當所ノ物品預リ証各ヲ紛失セシ時ハ其証各面記載ノ期限満ル後ニ非レハ該物品ヲ受戻スコトヲ得ス而テ該物品受戻レ或ハ餘金即チホトニ金ニシテ第七節ニ詳説ス受取証各ニハ一定ノ住居アリテ確實ナル一名ノ保証

人ヲ立ツヘシ

第六十九條 前条典者ヨリ領受書ヲ出スル典物ノ價金百フラン凡我ニ拾円以下ハ之ヲ典當所ノ帳簿ニ記スルニ止マルトモ百フラン以上ナレハ典者証各人ノ前ニ於テ該領受各ヲ作ルヘシ

第七十條 典當物品若シ他ニ於テ紛失セシモノニ係リ或ハ他ノ事故有ルカ為メニ他人ヨリ其返戻ヲ要スルトキハ左ノ箇條ニ循フヘシ

第一 要求者法律上ニ於テ該物品所有ノ推理有ルトシテ判然確示スヘキ事

第二 典當所ニ於テハ該物品ヲ抵當ニ預リ貸附セシ元金利子ヲ要求スルヨリ收納スヘシ然レトモ要求者ニテ該物品典者ハ勿論督長

官其他ノ吏員ニ於テ詭詐或ハ犯罪ノ事アリ
且ツ此法第四十七條ノ規則ニ背キ怠慢
ノ事アリト識認スル時ハ相當ノ処置ヲ施
スヘキ権アリ

第六節 典物競賣及ヒ満没ノ事

第七十一条 典當物若シ其期限内ニ購ハサルハ
典當所ニ於テ之ヲ競賣シ而シテ其金額ヨリ元金
及ヒ利子ヲ引去リ其餘金ヲ典者ニ返付スヘシ
第七十二条 法ニ適ヒシ典當品ハ成規ニ因テ満没
スル外ハ典當所ニ於テ縱令何等ノ事故アリトモ
之ヲ競賣スルヲ得ス
第七十三条 督長ハ物品競賣ノ目錄簿ヲ作り之ニ
其満没セシ物品ヲ摘記シ而シテ之ヲセース縣一

等裁判所ニ送致シ該長官或ハ裁判官ノ認許ヲ經
ルニアラサレハ競賣ノ処分ヲ施スヲ得ス

第七十四条 前条目錄簿中若シ金銀ノ器物或ハ金
銀ノ粧飾シタル物品アル時ハ之ヲ金銀検査局ニ
報知シテ該物品ノ改査ヲ受クヘシ

第七十五条 金銀検査局ノ吏員ハ典物競賣場ニ臨
シ金銀ノ器物ヲ改査シ若シ其中ニ檢印無キモノ
アレハ之ヲ他ニ賣渡スヲ許サス尤此法第八十
七条ノ場合ニ於テハ此限ニ非ス

第七十六条 典物競賣ノ日ハ十日前ニ於テ其旨ヲ
報告スヘシ但シ緊要ト見認ル物品ハ其目錄ヲ作
リ之ヲ刊行頒布シ或ハ又特別ニ其典者ニ告示シ
又競賣施行前該物品ノ展觀ヲ許スヲアリ

第七十七條 右報各各ニ競賣物品ノ名称記号及
競賣規則ヲ詳記スヘシ

第七十八條 典當所ニ於テ^{物品}競賣セントスルトキ
仮令之ヲ拒ム典者アルモ是レガ為メニ該事務ヲ
停止スルト無ク且ツ賣競ノ日ニ至リ該拒絶者ヲ
招呼スルニ及ハス是レ一般ノ報告各ニテ足レリ
トスレハナリ然レ^レ典者ニ於テ賣上ケノ餘金ヲ
請求スル^利妨クヘカラス

第七十九條 典物ノ競賣ハ典當所ノ評價人ニ於テ
之ヲ施行シ又其肝煎ナルモノアリ該物品ノ價金
ヲ傳呼シテ之ニ助勢ス但シ肝煎ノ入費ハ評價人
ヨリ辨償スヘシ

第八十條 評價人ハ手数料トシテ物品賣上ケ高

ノ幾分ヲ給与スヘシ

第八十一條 手数料ノ割合ハ該事官ニ於テ每年初
ニ之ヲ評決ス而シテ該縣令ノ意見ヲ聽キ内務卿
ノ認可ヲ經ヘシ

第八十二條 手数料ハ渾テ買主ヨリ之ヲ拂フヘキ
モノトス故ニ買主該物品ノ價金ヲ拂フ時其金高
ニ手数料ヲ加フヘシ

第八十三條 該事官ニ於テ決定セン手数料ノ額ヲ
競賣所ニ貼示スヘシ

第八十四條 前条手数料ノ外典物競賣ノ為メニ刊
行セン目錄簿其他費用ハ競賣價金高ノ一分ヲ収
領スヘシ

第八十五條 前条ノ費用ハ典當所ニ於テ典物競賣

施行雜費ノ為メ之ヲ收領スルモノニシテ手数料ト同シク渾テ買主ヨリ別ニ之ヲ納ムヘシ

第八十六条 渾テ買主ハ競賣所ニ於テ直ニ物品ノ價金手数料及ヒ費用ヲ結ムヘシ若シ一時ニ完納シ得サルキハ直ニ其場ニ於テ再ヒ該物之ヲ競賣シ而シテ其損失ハ前買主ニテ之ヲ辨スヘシ但シ再度ノ競賣ハ評價人ヨリ其買主ハ一應未納金ノ督促ヲナシテ尚ホ納付スルヲ能ハサルキニ限ルヘシ

第八十七条 競賣物品中若シ金銀質或ハ金銀ノ粧飾アル物ニテ檢印ナキモノ買主ニテ該物品其終ニ使用セス之ヲ破壊シテ購求スルヲ承諾セハ則チ之ヲ賣渡スヘシ

第八十八条 前条檢印ナキモノ買主ニ於テ其終使用セント要セハ一時其競賣ヲ止メ之ヲ金銀檢査局ニ回致シテ檢印ヲ乞ヒ其手数料ヲ納ムルニ非レハ之ヲ賣渡ス可カラス

第八十九条 競賣物品ノ小譯書其他証書類ノ印紙税及ヒ書入手料等ヲ免除ス

第九十条 競賣セル典物ノ價金ハ評價人ヨリ直ニ倉庫管理官ニ回致シ該官之ヲ遅クモ三日内ニ典當所會計官ニ納付スヘシ

第九十一条 競賣物品物譯書及ヒ証書類ハ競賣所ノ帳簿ニ登記シ而シテ一品毎ニ該典當者ノ會計表ヲ作ルヘシ

第九十二条 右ニ會計表一方ニハ競賣ノ價金高ヲ

記レ一方ニハ兵者ヨリ納ムヘキ元金及ヒ利子等
ノ高ク記レテ其差引決算ヲナシ而シテ典者ニ返
付スヘキ餘金或ハ評價人ヨリ償フヘキ即チ此法
第三十五條ノ如シ不足金ノ高クモ記載スヘシ

第七節 餘金ノ事

第九十三條 餘金ハ談典者ヨリ曩ニ典當所ニテ與
ヘシ典當ノ預リ書ヲ出ス時ニ於テ之ヲ付与スヘシ

第十四條 典當所ノ預リ証各フ有セサル者ハ特
別ノ領收証〔此法第六十八條ノ如シ〕ヲ出スヘシ

第九十五條 第七十八條ニ記セシ如ク典當所ヨリ
返付スヘキ餘金ハ談典者ノ債主ヨリ要求スル
ヲ得ヘシ

第九十六條 此餘金債主ニテ典者ヘ返付セラレ
テ拒ムルハ必ス督長官ニ具状スヘシ假令支店ニ

於テ之ヲ拒ムルハ必ス督長官兼認ノ檢印ナケレ
ハ執行スルヲ得ス但シ檢印ハ無入費タルヘシ

第九十七條 餘金返付ノ事ニ就テ若シ拒ム者アル
時ハ典者ト其拒絶者ト熟議ヲ遂クルニ非レハ典

當所ニ於テ之ヲ返付スヘカラス

第九十八條 此餘金典者ヨリ三年以内ニ請求セザ
ルニハ則チ期滿得免トナリ而シテ其金額ハ典當

所議事官ニ於テ檢査ノ後之ヲ救濟所ヘ納付スヘ
シ

第九十九條 典物滿没ノ後ハ之ヲ競賣シテ其餘金
ヲ領受スヘキ期限等ヲ典者ヘ認識セシムル為

メ之ヲ典者^當所^預リ証^各各ニ記入スヘシ

七 支店貸付方ノ別規則

第百條 支店ニ於テスル貸付ノ方法ハ渾テ本店ト同一ノ法ヲ以テ施行スヘシ

第百一條 渾テ支店ニ於テ管理スル事務其結局ニ至レマテハ之ヲ擔任スヘキモノト雖^氏或^ル支店ニヨリテハ其典物ヲ購^ヒ又ハ覽賣ニ出スマテ之ヲ擔任スルカ或ハ該物品ヲ本店ニ回致シテ延期ヲ請^ヒ又餘金ヲ渡スカノ事ハ本店ニ照會ノ上ニアラサレハ之ヲ施行スルト^ラ得^ス

第三章

預金ノ事

第百二條 典當所ハ一般ノ人民ヨリ付托スル貨幣

ヲ預カリ以テ之ヲ使用スルト^ラ得^ス

第百三條 預リ金^{利子}ノ額ハ毎年該事官ニ於テ之ヲ定メ該縣令ノ意見ヲ聽キ内務卿ノ認可ヲ得ヘシ

第百四條 付托金ヲ預ル^ルハ典當所ヨリ普通ノ証書ニ葉^フ其預^ケ主ニ付与スヘシ其一葉ハ元金ノ高^ク記シ一葉ハ利子ノ高^ク記シテ各其記号年月日及ヒ期限ヲ併記スルモノナリ

第百五條 元金証^各各ニハ其預^リ金ノ額ヲ記シ之ニ總會計官金庫管理官名ヲ署シ又替長官証^各各帳簿ニ記入濟^ニノ証及ヒ該事官一名承認セシ証憑トシテ各自ノ名ヲ署スヘシ

第百六條 利子証^各各ニハ其利子高^ク記シ之ニ替長

官及ヒ議事官一名承認セン証憑トシテ各自ノ名ヲ署スヘシ

第百七条 前条ニ記載セン預リ金逐次償還スルハ

ハ其時々之ヲ帳簿ニ記入スヘシ

第百八条 典當所ニ於テハ毎三月ニ預リ金ノ額ヲ

調査シ而シテ其報告各二本ヲ製シ一ヲ内務卿一

ヲ該縣令ニ進呈スヘシ

右ノ如ク決定スルモノナリ

那破倫

重

皇帝兼國王ノ命ヲ以テ

宰相「マ」レ「ト」署

